

## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

(1) 航海番号：KS-19-22

(2) 使用船舶：新青丸

(3) 航海名称

日本海における対馬暖流フロントと内部慣性重力波の相互作用：乱流混合と基礎生産への影響評価

(4) 主席研究員

川口悠介（東京大学大気海洋研究所）

(5) 研究代表者

SH19-16 川口悠介（東京大学大気海洋研究所）

(6) 研究課題名

SH19-16 日本海における対馬暖流とフロントと内部慣性重力波の相互作用：乱流混合と基礎生産への影響評価

(7) 航海期間

2019/10/25 ～ 2019/10/31

(8) 出港～帰港

伏木富山港新港区海王岸壁 ～ 新潟港中央ふ頭 H 岸壁

(9) 調査海域

日本海 佐渡沖・能登半島沖

### 2. 調査概要

新青丸航海 KS19-22 では、日本海佐渡・能登半島沖の海域を中心とした海洋物理項目を中心とした調査を実施した。本航海では、日本海の佐渡沖から大和海盆周辺を主とした海域において調査を行った。観測項目は、水温・塩分・溶存酸素（CTD）、乱流（VMP）、流速（ADCP）、漂流ブイ、等である。ほとんどの観測点で計画通りに調査を実施することができた。観測の焦点としては、佐渡島と能登半島の間位置する渦対構造（東西に約 100km）を繰り返し観測し、その空間的構造や物理・水塊特性における実態を様々な見地から解明を試みた。佐渡沖の対馬暖流フロント近傍に設定した観測点において、XX 時間の定点観測を実施し、リファレンスとなる乱流鉛直プロファイルを取得することができた。